

2022年11月24日

自尊感情と学力 ～「ありがとう。」の発信を～

私はかつて野洲小の校長時代、PTA新聞に子育てと学力について書きました。「子どもの自尊感情と学力は相当関係あります。」と。学力向上が教育の大きな使命となっている今日、**校園だけでなく家庭生活をも含めた子どもの自尊感情の育成**に注目したいと考えたからです。（下の枠内参照）

ところで、子どもたちの自尊感情を育てるためにみなさんは日ごろどのようなことをされていますか？（保護者向けには、家事手伝いでの「ありがとう。」などの声かけをお願いされている校園も多いのでは・・・）学校での一番は何と言っても授業中の先生の言葉かけですよね。授業での子どもたちの発言や動きを見つけ出し、プラス言葉で積極的に評価すること（**プラス言葉の発信**）。もちろん、そのために私たち教職員がアンテナを高くすることが大切です。「**先生の気づきは、子どもの指導の第一歩**」とも言われます。これは園でも同じですよ。

私は、新任のころ先輩から「もっとにこやかにしいや。」とたびたび助言されました。授業がなかなか進まず、それこそ眉間（みけん）にシワをよせての授業。これでは子どもたちは楽しいはずがありません。当時言われたのが割り箸を口にくわえてのにこやかな表情の練習です。「にっ！」という口元に割り箸をはさむ動作。今ではこんなことだれも言いませんが、新任どうして鏡を見て練習したものです。それにもう一つ、苦勞しましたが1時間ごとの授業案（中学校社会科）を作ること。こうした地道な取組みを進めていく中で、「ありがとう。」の言葉も少しずつ出せるようになりました。

一方、学級経営でも、掲示や配布などのさまざまな「仕事」で子どもたちをプラス評価することも大きいです。「**先生は、いいところ見つけの天才や!**」と、**子どもたちに言われたらうれしいですね。**

「ありがとう。」と学力

「ありがとう。」この一言、家族の中でも難しいですね。子どもにとって親が（ご飯づくりや何かを）するのはあたりまえ。親も、子どもが（勉強などを）するのは当然と思いがちです。でも、これが学力向上につながっているとしたらどうでしょう？

最近の研究で、『自尊感情』（自分を大切に思うこと）と子どもの学力には相当関係があると言われています。では、その方法は？ 代表的な言葉が「ありがとう。」です。人に感謝されることで「自分は人の役にたっている」と実感し、結果として自分を大切にする気持ちが育ちます。

また、子どもは大人と同じようにしたがりです。その「やる気」をうまく利用して何かをしてもらい、「ありがとう。」を子どもに返すのです。家庭にはそんな材料＝「家事」がいっぱい。

気をつけるのは一つだけ、それは「失敗を叱らない」です。子どもたちの自尊感情の育成をめざして、みなさん共にごがんばりましょう！